



ドングリがならない年は ツキノワグマが町に出る？

堅果の豊凶がツキノワグマの出没に及ぼす影響

1 ツキノワグマのこと

ツキノワグマは、本州最大の哺乳類で、その姿は豊かな森の象徴であるともいえます。一方で、ツキノワグマ(図1)による農作物や造林木への被害とともに、人身事故も生じています(表1)。山梨県には、目撃事例等から判断するとほぼすべての森林において生息していると考えられています。



図1. ツキノワグマ(環境科学研究所 HP)

ツキノワグマの食べ物は季節によって異なり、春先から夏はキイチゴ類やサクラ類の実などを食べており、秋にはミズナラやコナラ、ブナなどのドングリ

(堅果)をたくさん食べて冬眠に備えると言われています。そして、これらのドングリをならす樹種の多くは、豊作の年と凶作の年があるため毎年ドングリをならす訳ではなく、**豊作は数年に1度程度である**ことがこれまでの研究から明らかになりつつあります。また、最近十数年の凶作年において、ツキノワグマが人家近くに出没する回数が増加するというデータも出始めています。

したがって、ドングリがなっているのかそうでないのかがわかれば、ツキノワグマが出没しやすい年なのかがわかるかもしれませんが、そのような情報は地域住民への注意喚起になるでしょう。

ここでは、山梨県での最近のドングリ(主にミズナラ)の豊凶とツキノワグマの駆除数や目撃数の関係について解説し、今後の対策について考えてみたいと思います。

表1. 山梨県におけるツキノワグマの有害捕獲数および人身被害件数

(年)	2006	2007	2008	2009	2010
有害捕獲数(頭)	96	22	30	22	38
人身被害件数(件)	4	2	2	1	3

2 ドングリのなり具合をどのように調べるか？

ドングリのなり具合を調べる方として、木から落ちてくるドングリを数える方法があります。ドングリとなる木の下に、ざるのような装置（シードトラップ）（図2）を設置して、その中に入ったドングリの数を数えます。地面に落ちた数を数えてもいいと思いますが、調査に行き数えるよりも野ネズミやリスが持ち去ってしまうことの方が早いため、このような方法が用いられます。今回は、ミズナラを中心として県内4箇所でのドングリのなり具合を評価しました。



図2. シードトラップ

3 ドングリとツキノワグマの関係

調査の結果、2003年と2009年は並作～豊作、2002年、2006年、2010年は凶作の傾向にあったと思われました（図3）。凶作傾向にあった2006年、2010年には、山梨県でもツキノワグマの出没が多く確認されました（2006年：有害鳥獣駆除による捕獲が昭和62年以降最多の96頭、2010年：目撃情報は10月末時点で134件と、昨年同期の3倍）。したがって、ドングリがならない年はツキノワグマが食べ物を広範囲に探すため、人間との遭遇が増加したのではないかと考えられました。

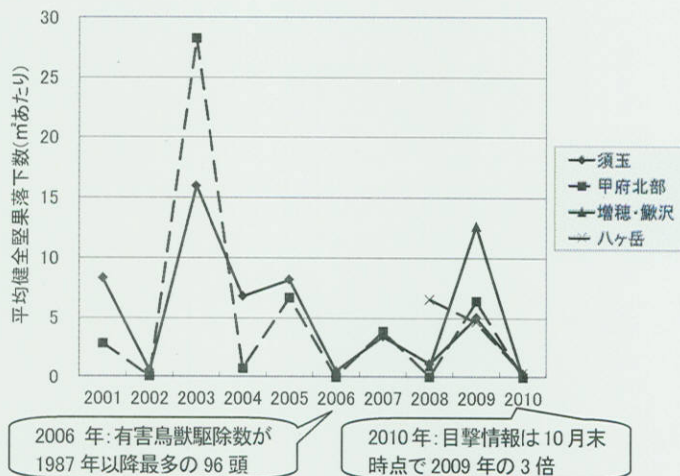


図3. ミズナラを中心とした堅果の落下数の年変化

4 今後の研究・対策

しかし、これまでの凶作年でのツキノワグマの大量出没時には、夏から人家近くに出現していることが報告されています。このように、ツキノワグマは早い時期から、その年のドングリのなり具合を見て備える行動をしているのかもしれません。

岩手県、長野県、富山県などでは、ドングリのなり具合を夏に調査して、ツキノワグマの出没予測を行っています。また、環境省でも、クマの生息する都道府県に対して、ドングリのなり具合についてのアンケート調査を春と秋に行い、公表しています。皆さんもドングリとなる木がある林に行った際には、ドングリのなり具合を観察することで、ツキノワグマの行動を予測することができるかもしれません。

また、ツキノワグマと上手なつきあい方をするためには、採り残しの柿や放棄された果樹林などを適切に処理するなど、様々な方法が求められます（県の以下のサイトもご参照ください：http://www.pref.yamanashi.jp/news/200710/documents/file_1191302560039.pdf）。

監修：山梨県森林総合研究所
森林研究部 環境保全科
長池 卓男

編集：普及指導部
TEL 0556(22)8001
FAX 0556(22)8002